

＜金標準先物、FOMC、ECB 理事会に向けて下値追い・・・＞



(出所：オアシス)

週末に発表された PCE デフレーターは、前年比で事前予想の 5.3%を下回る 5%となり、前月の 5.5%からも低下している。また PCE コアデフレーターでも 4.4%と前月の 4.7%から低下している。またミシガン大消費者信頼感指数の発表では 64.9 となり、前月の 59.7 から上昇したが 1 年先のインフレ期待は前月の 4.4%から 3.9%へ低下している。

特に今週 1 日に開催される FOMC では、経済指標の低下を受け FF レート誘導目標を 0.25%の引き上げが有望となり、翌日の ECB 理事会では 0.5%の利上げが支持されるなど、金利思惑が強まり為替市場においてユーロ高・ドル安の動きを受け金標準先物は 8098 円まで高値を試すなど市場は織り込み済の様相を見せている。

そのため FOMC や ECB 理事会を終えるまで利益確定の動きが強まると見られ、7950 円に向けた下値追いには注意が必要と思える。ただ今回の FOMC では経済予想はない事からパウエル FRB 議長の記者会見が注目される。また FRB と ECB の金融政策のギャップが解消され、ドルの買い戻しが強まるタイミングでもあり、円建ての金標準先物は再度高値追いを示す値動きが強まると思える。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD が下げながらシグナルは上昇しており、RCI では短期が長期を上回る事無く下げており、長期は高い水準で維持するなど、目先の調整を示唆していると思え、8000 円を下回る値動きには注意した方が良いと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,920,000 円(2023 年 1 月 30 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2023 年 1 月 30 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>